

テーマ「命どろ宝」

ブックメイト・図書委員による
読み聞かせ集会(6/22)

— 「読み聞かせ」・「講話」で平和を考える —

今年度も慰霊の日を前にブックメイト・図書委員(6年児童)の皆さんの読み聞かせによる平和集会を行いました。『なまえ』という絵本は、沖縄線で名前をつけてもらえなかった赤ちゃんの話です。

沖縄戦が激しさをます中で生まれた赤ちゃんの中には名前のない子もいました。そして一番弱い赤ちゃんが生き延びるにはあまりにも過酷でした。平和の礎には「フミの次男」という名前も彫られているそうです。

『わたしのやめて』は、子どもの視点から戦争の恐ろしさ、戦争はいけないと主張している絵本でした。また読み聞かせの合間に佐事安夫さんの三線の伴奏で、「童神(わらびがみ)」を歌いました。

今回の読み聞かせを通して、多くの児童が「戦争は絶対にしない!」「命こそ宝だ」という思いを強くしたものだと思います。ブックメイトと図書委員の皆さん、素晴らしい企画ありがとうございました。



講話：「0才の戦場」
平和の心を大切にしよう

講師 久保田暁先生(6/18)

慰霊の日に向けて、今年も平和学習(総合学習)を3年生以上で行いました。今年は、



「0才の戦場」という題で今年7才になる「久保田暁先生」をお招きして講話していただきました。糸満で家族全員で避難しているとき先生は0才、お母さんの腕の中での避難生活だったそうです。沖縄戦まっただ中、赤ちゃんを腕の中、背中に2才の子(先生のお兄さん)を背負っての避難は過酷だったようです。そして、鉄の暴風によりお母さんの背中におぼわれた2才の子は被弾し、死んでしまったこと、そのことがお母さんや腕の中の赤ちゃんを守るようになったことなど、たいへんつらい体験をお話していただきました。それ以外にも「疎開船対馬丸」、「ひめゆり学徒」、「白旗の少女」などの戦争の悲惨なお話をしていただきました。最後に「戦争も平和も人の心を作る、平和の心を大切にしよう」と訴えられました。今年も戦後73年目の夏がやってきました。各ご家庭でも戦争や平和を考える機会にしてほしいと思います。

お礼のあいさつ(代表) — 抜粋 — 6年 山口恵里奈

今日はお忙しい中、私達のために講話をして下さりありがとうございました。今日のお話で、暁先生は戦争の時は0才だと知りました。そしてあのような激しい戦争を0才で生き延びたのはすごいと思いました。

私が特に印象に残ったことは二つあります。一つは、私達と同じくらいの小学生が兵隊になったり、また傷ついた兵隊の治療にあたりしてとても大変だったんだろうなということです。二つ目は、男の子と兵隊さんがもめているうちに、男の子は兵隊さんに叩かれて、腕の骨が折れてしまったところが印象に残っています。やっぱり戦争はとってもダメなことだと思います。絶対戦争をしてはいけないと思います。

暁先生、今日はありがとうございました。これからもっと暑くなると思うのでお体に気をつけて頑張ってください。

母の日図画作文コンクール
— 127名の入賞おめでとう —

図画の部で優秀賞に1名、佳作に8名、入選に118名、計127名のたくさんの児童が入賞しました。代表で優秀賞に輝いた2年のわたなべゆめさんが体育館で伝達表彰をされました。かわいいお母さんの絵が描けていますね。おめでとうございます。



図画の部:優秀賞 わたなべゆめさん

母耳鼻科検診のお手伝いありがとうございました。

前回、耳鼻科検診のボランティアをして下さった方が正確ではなかったので改めて氏名報告させていただきます。ボランティアありがとうございました。

- 新垣あかねさん
- 照屋昇さん
- 大城千恵美さん
- 元榮美緒さん
- 上岡悠歌さん



避難訓練 6/15
— 不審者避難訓練 —

「いかのおすし」の意味わかりますか? 3年生のクラスに不審者が侵入したと想定して、避難訓練を実施しました。校内放送があつてから避難まで、3分58秒と迅速に避難できました。その後、警察官の方より、子ども達に「いかのおすし」で防犯のお話をわかりやすくしていただきました。ところで「いかのおすし」意味わかりますか。よく聞く言葉でも、いきなり聞かれるとすぐ出てこない。しかし子ども達はすんなり言えました。えらい!

- いか→いかな
- い
- の→乗らない
- お→大声を出す
- す→すぐ逃げる
- し→知らせる

